Monthly Company Magazine

ONDO

月刊 おんど

January
No.544 2023 1月

ウチヤ・サーモスタット株式会社
UCHIYA THERMOSTAT CO.,LTD.
月刊おんど編集部（総務部）
〒341-0037
埼玉県三郷市高州２－１７６－１
TEL： 048-955-4181
FAX： 048-956-1310
E-mail： info@uchiya.co.jp

令和五(2023)年度　新春の年頭挨拶

令和５年１月元旦

社長　清水 澄人

新年明けましておめでとうございます。謹んで新春のご挨拶を申し上げます。

今年の干支、卯(うさぎ)は穏やかで温厚な性質であることから、「家内安全」、その跳躍する姿から「飛躍」、「向上」を象徴するものとして親しまれてきました。景気が上向きに跳ねる、回復すると言われており、株式市場にとっては縁起の良い年として知られているようですが、果たして今年は如何でしょうか！

相変わらず、COVID-19 コロナ禍は続いていますが、昨年の 11 月に欧州市場、12 月には米国市場を訪問して市場調査をして参りました。欧米を中心として中国以外(今年１月に訪問予定調査予定)の国々はウィズコロナ政策で徐々に通常の生活を取り戻しつつある様に思います。

日本でも第８波の発症者が続いていますが、緊急事態宣言や蔓延防止法を適用する自治体はなくなり、重症化率も低く経済優先の欧米諸国の対応に歩調を合しつつあります。何れは只の風邪若くはインフルエンザの一つとして扱われるのも時間の問題と思います。昨年１１月以降の国内景気はクリスマスや年末に向けた需要の高まり、企業のＩＴ投資需要も上向き傾向が続き、建設工事関連なども改善、飲食料品の宅配サービスは好調、宿泊業などの観光関連やＤＸ（デジタルトランスフォーメーション)関連企業も上向き傾向。又、急激な円安も一服感が出ています。新年については海外経済の減速が懸念されていますが、国内全国旅行支援の延長処置及び新年度での再開が決定するなど、政府政策による観光関連需要への後押しは進み、インフレ手当を含め企業への賃上げの動きやインバウンド消費の再拡大など、今年は企業業績を含め緩やかな改善傾向であり、日本経済は回復基調で推移するとの見通しとなっています。然し乍ら、海外では経済が下降する懸念は強まっており、米国の失業率大幅上昇、中国のロックダウンと不動産市場の大幅調整及び企業の業績悪化、欧州ユーロ圏のエネルギー問題や難民の増加及びロシアによるウクライナ侵略戦争への関与の深刻化が経済を収縮悪化させています。全般的には世界経済は深刻な不況に陥るとの考え方が一般的な見方となっています。

これらの状況を踏まえ、ウチヤ社の今年の業績見通しを説明しますと、前期 2022 年 2 月末決算では売上が前年比 30%強の増加、これに対して 2023 年 2 末決算は前期比 4%程度のダウンで略順調を維持する予定ですが、本年 3 月からの新会計年度(2024 年 2 月末決算)としましては国内外の顧客殿でのコロナ禍対応で積み増しされた在庫調整が進むものと考えられ、この為に従来の市場からの受注は一旦縮小、その後、在庫調整(半年は掛かる)が終了次第、徐々に従来の受注量が回復して来るものと判断しています。無論、ビジネスモデルが変わり戻らない市場

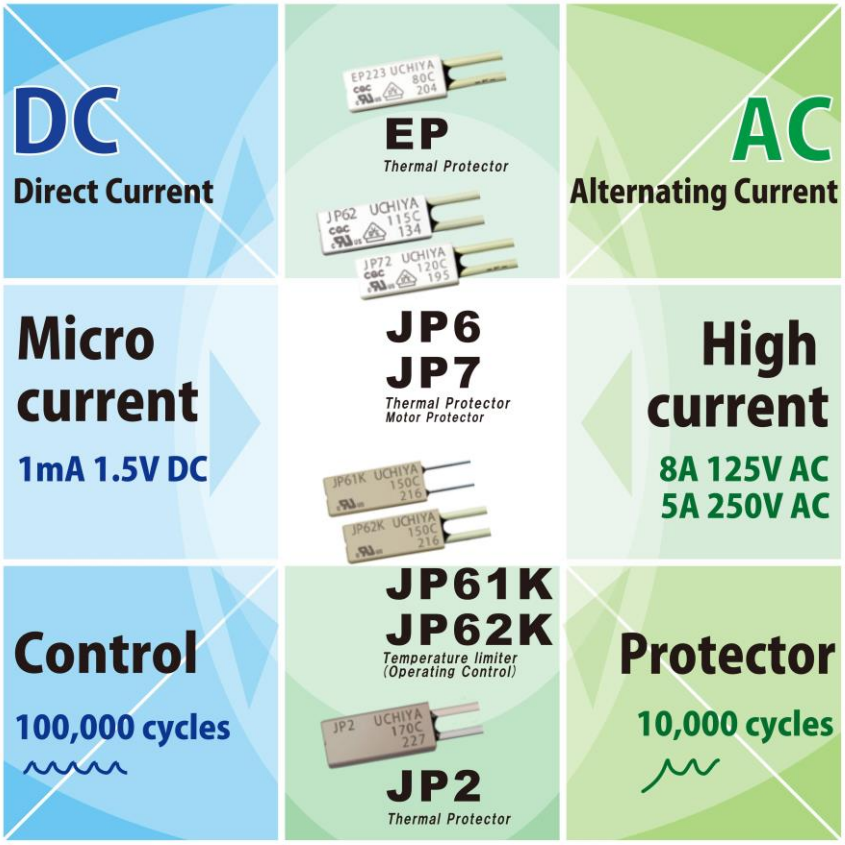
の受注も発生しますので、今期(2023 年 2 月末)レベル維持を目標としています。
加えて、CO2 を原因とした地球温暖化による世界規模の気候変動は生態系にも影響を及ぼし始めています。専制主義国家と民主主義国家との対立や紛争・戦争が引き起こすエネルギーの供給不安定、価格の高騰。拝金主義に因る節操のない詐欺ビジネスの横行や仮想通貨による市場の混乱。等々の景気(経済)見通しを立てる上で不確定要素の拡大があり、予測は容易ではありませんが、ウチヤ社は新しい市場を開拓することでこの落ち込みをカバーする企業戦略を進めています。家電は略全滅、データ改竄や粉飾決算による大手企業の信用喪失、凋落と言われる日本経済ですが、ロボット産業や工作機械、半導体製造設備の日本の製造設備メーカーは現在で世界一のシェアを維持、最後の砦を守っています。この市場へのビジネス構築を進めており、着々と成果を上げつつあります。このマーケットに打ち込んでいる製品のハイブリッドサーモスタット(JP・EP・JP2・JPK)は、既に今年のビジネスを増強するメインプロダクトに成長するとの確信を日本国内は基より欧米市場を回って得ております。　又、今年は UB7 のリニューアル高付加価値商品を立ち上げ予定、その後、UHK へ UB8P 高付加価値製品の 1 ラインシフトと共に UHK でも立ち上げます。更には 8×5mm バイメタルを使った製品レンジでは、今迄カバーしていなかった低温帯(-10℃～50℃)と温度コントロールも可能な新製品を準備中、高温帯レンジでは 150℃～180℃をカバーする新製品も順次投入予定、バイメタル式温度ヒューズ TH930 の立ち上げ準備、自己保持型サーモスタット EP42P の車載展開、そして新型モータプロテクターの開発を完了させる、等々の新製品の投入及び準備計画としています。
当然、海外安全規格の取得に悪戦苦闘は付きものですが、これらにウチヤは果敢にチャレンジして世界景気が悪化するピンチをチャンスに変える決意で望みます。その為には協力企業及び各サプライヤー様、並びに共栄会各社様の協力や応援を確りと取り付けことを何より重要だと思っています。ウチヤ社全員が一丸となって新しいビジネス創出に出航することを宣言致します。

	2022年	2023年
世界	3.2%(0.0)	2.7%(0.2↓)
米国	1.6%(0.7↓)	1.0%(0.0)
ユーロ圏	3.1%(0.5↑)	0.5%(0.7↓)
日本	1.7%(0.0)	1.6%(0.1↓)
中国	3.2%(0.1↓)	4.4%(0.2↓)

以下参考ですが、日本国に取って大きな再チャレンジの産業情報を掲載します。
経産省発表：1980 年代には世界的に高いシェアを獲得していた日本の半導体産業ですが、近年は台湾や韓国の企業が台頭。経済産業省は世界的な半導体不足や経済安全保障の観点から国産化を推進しています。同省は日本の半導体生産について「世界からは 10 年遅れ」「先端ロジック分野では後進国」と評価。国家戦略として Rapidus の設立により台湾 TSMC などが 25 年の量産化を目指している 2nm プロセス以下の量産技術にキャッチアップしたい考え。遅れを取り戻すには「これまでとは異次元の取り組みが必要」（経産省）としている。経済産業省は昨年 11 月 11 日、日本における半導体産業を活発化させるための研究開発組織を立ち上げると発表。半導体製造業や IT 企業などの出資によって設立される製造会社「Rapidus」が生産を請け負う。年内に半導体技術の研究開発拠点「LSTC」（Leading-edge Semiconductor Technology Center）も立ち上げる。今後は LSTC と Rapidus の二本柱で開発と生産を進め、2030 年までに市場規模 100 兆円を目指す。(経産省発表)Rapidus には半導体の量産製造拠点として国内トップの技術者を集結。キオクシア、ソニーグループ、ソフトバンク、デンソー、トヨタ自動車、NEC、NTT がそれぞれ 10 億円、三菱 UFJ 銀行が 3 億円を出資、国の出資 700 億円、取締役会長には元東京エレクトロンの東哲郎氏、代表取締役社長にはウエスタンデジタルジャパンなどの代表取締役を歴任した小池淳義氏が就任する。LSTC での 2nm プロセス製造実現については、すでに 2nm プロセスの製造に成功している IBM の協力を得ながら……ということになっている。ここは、2022 年 7 月に日米で合意した、対中国政策としての「次世代半導体の量産化共同開発」に基づくものでもある。

UCHIYA

HYBRID THERMOSTAT



以上

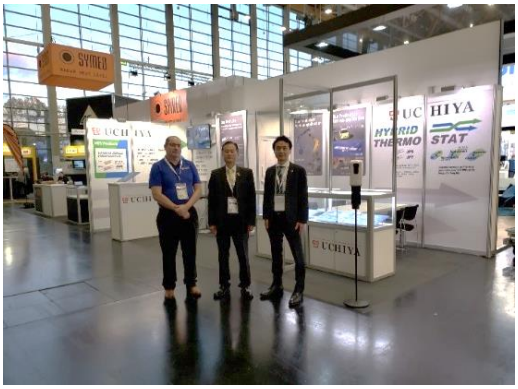
ヨーロッパ出張報告

2022 年 11 月 30 日

研究開発部部長　飯塚和幸

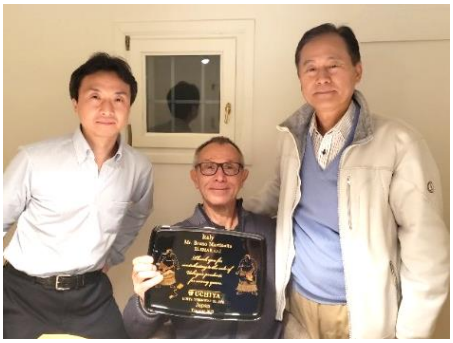
2022 年 11 月 5 日～19 日に、清水社長とヨーロッパへ出張しました。2019 年以来のヨーロッパ出張です。出張の第一目的は、ドイツニュルンベルクで開催の国際展示会 SPS に出展し、ウチヤ社のプロモーションと市場調査を行うことです。出展には、アイルランド（Uchiya Ireland Ltd.(UIL)）の Mr. Seamus Seymour, General Manager と Ms. Bernie Ruane が加わりました。SPS とは Smart Production Solutions を略したもので、モータ、モータ保護装置、ドライブシステム、センサ技術、制御技術、電源、生産ソフトウェアなど 、スマートかつデジタルなオートメーションの全領域をカバーする独自のコンセプトを有する、という設定がされている展示会です。近年、ウチヤ社は毎年出展していましたが、新型コロナウイルスの影響で展示会の開催が中止になっていたこともあり、3 年ぶりの出展となりました。ヨーロッパでは新型コロナウイルスは、通常の風邪と同程度の扱い（関心の深さ）であり、屋外でマスクを着用している人はほとんどいなく、電車の中など密集する場所で着用する程度です。その様な状況ですが、私たちは終始自己防衛を徹底して、感染を避けることができました。

ウチヤ社の展示会ブースは Hall 7A 内で、センサ関連の出展区画を割り当てられました。この Hall 7A は、Hall 7（制御、ロボット関連）に隣接し、周囲にウチヤ社のお客様が出展する条件が良い場所でありました。ブースに来訪頂いた既存のお客様と、サーモを求めている新たなお客様と多くの情報交換をすることができました。



展示会が終了した次の日は、安全規格の認証機関である VDE（ドイツオッフェンバッハ）を訪問しました。新製品 JP61K/JP62K を現在申請中であるため、申請内容の確認をサンプル持参で行いました。それ以外に開発中の４モデルについて、その特徴を説明し、申請した場合の評価内容などを質問し、大変貴重なアドバイスを頂きました。認証機関を訪問して直接話しをすることで、電子メール交換では得られない意思疎通が、短時間で深くできることを改めて認識しました。

ドイツからイタリアに渡り、イタリアの代理店 EleMar S.r.L 社の Mr. Bruno Martinetto, Managing Director と UIL の Mr. Seymour, GM と共にお客様訪問をしました。Mr. Martinetto, MD はイタリアでウチヤ社製品の販売に 1981 年から 41 年間ご尽力頂きましたが、今年でご引退されるため、最後の一緒のお客様訪問でした。これまでの敬意と感謝を表して記念品（輪島塗漆盾）を贈呈しました。



最後にイギリスに渡り、ウチヤ社の重要なお客様の１社であります Dyson 社の研究開発部門を訪問しました。現在、進行中の新プロジェクトにおける情報や実験データの報告を両社で行い、充実した打合せを行うことができました。

ヨーロッパ滞在で、物価の高さを痛感しました。例えば、ドイツのガソリン価格は、約２ユーロ/L（約 290 円/L）で、ディーゼルの価格もほとんど変わりません。イギリスでは、ヒースロー空港からロンドン中心部まで各駅列車一駅とエクスプレス 15 分乗車する往復チケットが 37 スターリング ポンド（約 6,200 円）と非常に高額であります。レストランでの食事は、ランチメニューであっても 2,000～3,000 円は覚悟が必要です。円安のために換算金額がより高くなります。現在、日本国内で物価上昇が止まらず問題となっていますが、ヨーロッパではさらに凄い状況となっていることを実感し、帰国しました。

以上

防災訓練の実施について

令和４年 12 月６日
資材総務部課長代理　今田優子

令和４年 11 月 22 日(火)、防災訓練を実施いたしました。今回は２００１年より２１年ぶりに三郷市消防署南分署の消防隊員の方々に派遣指導をしていただきました。

朝礼での説明

今回は、当日ではなく１週間前の朝礼で、製造部門、間接部門に分けて３０分ずつの説明を行いました。DVD「誰でもできる消防訓練」を上映し、火災発生から、初期消火、通報、非常ベル、受信機での出火場所の確認、放送、避難経路、消火設備の場所、避難時の注意事項などを説明しました。

防災訓練の実施

開始時間の１３時３０分を前に、消防車２台消防隊員７名が到着し、隊員は受信機や避難経路に配置され、避難状況を確認します。

出火

今回の出火場所は環境品証部の温度検査装置とし、新入社員の橋本さんが発見者となりました。「火事だー」の発生から、消火器を持ち寄り、城本課長の指示で末吉さんに１１９番通報を指示、非常ベルを押します。

避難開始

非常ベルが鳴り、南館２階の消防受信機で発報場所を確認。営業部黒田課代が本館１階での火災発生を放送し、避難開始。
部署ごとに整列して点呼。非常ベルが鳴ってから避難完了までは４分 40 秒という結果でした。

避難完了後の消火器訓練

避難が完了した後、南分署の消防隊員の方々の消火器訓練の指導がありました。

「火事だ！誰か来てください。」
「どうしました。」
「〇〇さん、119 番通報してください。」
その後、消火器で初期消火。

しっかり相手の名前を言って、１１９番通報を依頼するロールプレイが新鮮でした。2 人組で 10 数組が体験でき、普段出さない大きな声で火事を知らせることも良い体験だったと思います。**消火器の使用方法のポイント**は**「ピ・ノ・キ・オ」。ピンを抜き、ノズルを出して、気（キ）合を入れて、押（オ）す。**女性など、消火器が重く感じる場合は、火元の近くに置いて、押すのが良いと指導がありました。

発電機始動訓練

消火器訓練の後、生技部斎藤主任により、発電機の始動訓練がありました。特に、発電機に使用するガソリン携行缶について、噴き出して引火、爆発の無いよう、空気調節ネジをゆっくり緩め、缶内の気圧を下げてから、給油口を開けるよう説明がありました。

感想

21 年ぶりに、消防隊の派遣は、私にとっては入社以来、初めての経験となりました。消防車 2 台で来社いただき、姿勢が良く訓練された消防隊員に立ち会っていただくと、身内だけの訓練にはない緊張感もあり、良い経験となりました。
三郷市消防署としても、コロナ禍により 3 年ぶりの派遣となったそうですが、コロナの影響から、避難、通報、消火器訓練しか実施出来ませんでした。次回は救命救急、AED、煙体験なども体験してみたいと思いました。

以上